

感する沙汰

も知る可し又一案に文明進歩すれば人民は漸りに擴張して群集して隨て其地價を騰貴せしむ、地價騰貴すれば利用すれば之を防ぐ易し蒸氣機の發達を見ても困るなきの説もわらんかされど石綿等の如き不導電家と三階にし五階にして遂には十階以上二十階にも及び人口は市の周圍に膨脹するよりも上邊に昇進して下階層の都會とするは自然の勢にして西洋諸國既に其の階段を設け、方何里の溜水を疏通せんとて一筋の實際を見る可き處あり玆左れは今の中の道路はほんとく又疏水の爲めの堤制の如し自體の二階屢數に幅三尺の階段を設け、其人數に適當したるものなるに今日は其人民が七重八重に住居を構へて道路の幅は依然舊時に異ならずと云ふ其状態も三尺の階段の如く一筋の渠の如きに爲ると同時に其開合に從て往来の遠力を七八倍にするか道の幅を七八倍にするの必要は明白なれども兩共に差支多くして實行し難きが故に爰に新蓋は家の土階二十階なるに對して每二三階の高さに高架道路建設の法あり且下實地に行はるゝ高架鐵道の如きは自から其一端なれども未だ以て目的を達するに足らず近頃の往来に汽車上下の不便あるのみならず徒步馬車騎馬等の如きを遮りたる處にて其始末は如何す可かやと云ふ々相宜に平均して始めて實用に適し始めて都會の繁榮轉車等の爲めには疑非とも高架道を作りて現今の堵居にある道路の如くし市民住居の層と往来道路の層と連絡する所であるも然す可らず又陸軍の常備兵何十萬人問題の次第にして都會に由ては軍事擴張の一方ある可成或は貴族院の過なきには軍備擴張の過大を云々て增すみるとあるも然す可らず又陸軍の常備兵何十萬人の如にして其數を害くするは増税の外に手段なかつて昇場の實を見る可し他年一日此種の起業は今より期て空しからざる可し

卷之三

卷之三

昇騰の實を見る可し他年一日此種の起業は今より期して空しからざる可し

増税の決断如何

軍備擴張は支那より收め得たる資金を當にするものにして恰も賭博に勝ちたる金を遣んに異ならず裁財法の當を得たるものなれども拟巨額の臨時費を支出して軍艦兵隊を造りたる處にて其始末は如何す可きやと云ふに單に一時の散財にして金の盡ると同時に止むものとれば後に心配はなけれども軍備擴張は實際の必要に出でたる計畫にして例へば軍艦の二十何萬噸は將來に於て増すみどあるも或す可らず又陸軍の常備兵何十萬人間様の次第にして場合に由ては寧ろ擴張の一方あるのみなれば今後の經營費は次第に増加せざるを得ず而の歎にして其般を害くするは増税の外に手段なかる可し或は貴族院の過度には軍備擴張の過大を云々さて議論の中より三千萬圓を削減す可しとの説あり既に其議神にて上奏議の提出さへ試みたる程の次第にして近日の衆算會に於ては議論を見るふとならんと予想されて議論の中より三千萬圓を削減するには自かに一定の所感ある可き咎なるに其過の事は甚だ分明ならずして唯議神の經費中より三千萬圓を削る可しと云

卷之三

に更に非常の改正は恰も不意打を行ふものにして業者を保護する所以の道に非ざれば今回は先づ其七四を十国内外に進めて種なる可し假りに重税を一石一圓と計算し七に三を加へて四百萬石の銀造高に於ては僅に千二百萬圓の増額を得るに過ぎず政府の收入上は格別の多きを見ざるが如しと雖も是れは本來の目的を行ふが爲めの準備にして之を手始めとして今後次第に税率を遙め遙に頂上に達するの本心を公にするまでのふとなり斯くて營業者をして其税率に対する明意を爲さしむるは無論、又一方に於ては酒造家に増税を負擔せしむる其代りに政府に於て飽くまでも營業の手段を盡すは之れ又増税の準備として今日より不可きものなり即ち第一に自家用酒の製造を禁じ其輸銷を監査にして酒類の販賣を保護し第二には酒類並の税率を低くし其製造販賣を廻くして清酒を飲む事と能はざる下等社會に廉價の飲料を得せしむるの道を開き第三には税法を改良して納稅の期限を緩くし取扱吏には給料を厭はずして高尚の人物を擇み營業者の感情を顧んで納稅の便を謀るが如き何れも増税の準備をして差當り行人可き要件のみをあれば政府は頑度の議會に清酒稅率の改正と共に是種の方策を提出し國家現行の費用は現在の國民に負擔せしめて苟も嚴な云ふは唯此種の莫大如何に在て存するのみ無く甚だ減税者も始めて安心するを得べし政府の誠信

唯大袈裟に三千萬圓云々とは之を實地の數字談として聞く可らざるものゝ如し然かのみならず假りに此削除が多數の同意を得て貴院を通過するみどもあらんに以て其成行は如何なる可さやと云ふに參院との折合を難く可成はるは到底覺束なくして兩院協議の結果は無論、算算の上不成立に終らざるを得ず果して不成立の曉には一般の施設は前年度の算算に由て極く外なけれども若しよりは然るときは軍備擴張の如き全く中止せざるを得ず實質に許さる所なれば政府は止むを得ず其計畫を断行して議會に對して事後承諾を求むるの處置に出るゝなど實際には方力なけれども抑も事後承諾は例か緊急の事案に際し度々止むを得ざるの處置にして憲法政治の本色に非ず深く違ひ可きものなるに算算の不成立を知りつゝ強ひて削減を行はんとするは議會自から憲法の神聖を無視するものにして斯くて取らざる所なれば削減の利害は鬼も角もとして今度は廢議を見合するに至當なる可し我輩の敢て忠告する所なれども現今法律の始末は如何す可きやと云ふに削減などは思ひ寄らるのみか前號にて述べたる如く公債募集の手段に依頼して目前の安を倫むが如きは後世子孫に遺さるの日本憲法に於そあれば政府は斷然増税の覺悟を取らざるゝらず而して増税は差當り清潤税より始む可きることは疑ひ難い。又前に述べた所にして本來我輩の所見を以てすれば今の税率を二倍三倍に高むるも支那を信するものゝ

○東北議員の進退

日
任參事官（年俸四千
を以て參事院と組合
にせんとて某艦に成
きや否やは尙波勘者

